

れなさい。」という知恵に対して、「風化してはならない出来事は、決して忘れてはならない。」という教訓が伝承されているのです。

忘れるべきは何か、忘れてはならないのは何か、という判断は、各自異なります。しかし、今年も起こってしまった、次のような子どもを巻き込む事件は、何としても風化させてはならないと存じます。

○2月、神奈川県川崎市の中学1年の男子生徒が、年上のグループに殺害され、遺体を遺棄された。

○3月、4年前、いじめを受けていた滋賀県大津市の中学2年の男子生徒が自殺した事件で、地裁が大津市と遺族に和解を勧告し、その後、和解が成立した。加害者側とは係争が続いている。

○5月、神奈川県横浜市の高校1年の男子生徒が、母親と祖母を殺害した容疑で逮捕された。

○7月、岩手県矢巾町の中学2年の男子生徒が、いじめを苦に自殺した。

○8月、大阪市高槻市の中学1年の男子生徒と同級生の女子生徒が殺害され、遺体を遺棄された。

○9月、山梨県の高校3年の男子生徒が、祖母を殺害した疑いで逮捕された。

○9月、三重県伊勢市の高校3年の男子生徒が、同級の女子生徒を殺害した容

疑で逮捕された。男子生徒は、「自分がしたことに間違いはない。女子生徒に頼まれて殺した。」と容疑を認めた。

○10月、昨年度、全国の児童相談所が対応した児童虐待は、前年度から約1万5千件増え、過去最多(約8万9千件)と報じられた。統計開始以来、24年連続の増加である。

○11月、名古屋市の中1年の男子生徒が、「学校や部活でいじめが多かった。」という遺書を残して自殺した。

長年、子どものいじめ問題に取り組んでいる鳴門教育大学の森田洋司特任教授が、「児童・生徒のいじめは、大人社会のパワハラやセクハラ、虐待、DVなどと同じメカニズムで発生している現象である。したがって、いじめは子どもだけの問題ではなく、子どもと大人が直面している、社会全体で解決すべき問題である。日本の社会挙げての取り組みを通して、いかにして安全で、心豊かで、快適な社会を築くか、という日本の国民的な課題なのである。そして、いじめがなくならない国かどうかは、その国の教育力と国民の成熟度が指標となる。」と指摘しています。

子どもの犯罪及び反社会的な問題行動と大人の生きる姿にも相関がありますので、児童・生徒が被害者にも加害者にも

なってしまう、前述のような悲惨な事件を繰り返さないために、大人が本気になって、真剣に、全身全霊で立ち向かわなければなりません。

確かに、人間の本质は昔も今もさほど変わりはなく、人間は、いつの時代も、かれこれずっと「こんな調子」で生きてきたでしょう。しかし、またぞろ老いの勘ですが、この四半世紀、子どもに起こっていることは、とても「こんな調子」とは言えないのではないか、と思います。

昨今の少年犯罪と子どもの「心の育ち」の幅広さは、子どもの実態及び成長環境が、大人の考えている以上に根深く、ずっと大変な状況になっていると思わせるのです。

にもかかわらず、今年もまた大人社会で、下段のような、あつてはならない出来事や前代未聞の嘆かわしい社会問題が相次ぐ激動激変の年でした。

これらの現象は、まことに残念ながら、南佐久郡川上村出身の宇宙飛行士、油井亀美也さんの宇宙での活躍や、ノーベル賞に輝いた大村智先生並びに梶田隆章先生の快挙、郷土力士、御嶽海関の大躍進そして、W杯ラグビーにおける日本チームの大健闘などがもたらした喜びを、甚だしく減じたことです。

政治とカネ。政治家の失言暴言。子どもに見せたくない国会審議。問われた立憲主義・民主主義。警察官の犯罪。公務員の不祥事。医師の医療ミス。教職員の信用失墜行為。大企業の不正会計。大手建材会社のデータ改ざん。根絶しない特殊詐欺。プロ野球選手の野球賭博。不安を覚えるメディアの客観報道。養育責任を果たさない親。司法試験問題の漏洩。老人介護施設における高齢者虐待。最悪の事態に至ったイスラム過激派組織による日本人質事件。日本年金機構の年金情報流出。新国立競技場建設計画の全面的な見直し。東京五輪エンブレムの白紙撤回。等々。

子どもの健やかな成長のために、今、日本の教育力と国民の成熟度が問われている深刻な状況にもかかわらず、何たる大人の体たらくなことか、と嘆きつつ、紛う方無く自分もその一人であることに思いが至ります。

自分自身に巣くう体たらく……。

〈参考図書・資料〉

「いじめ 教室の病い」(森田洋司・清永賢二著 金子書房発行)
「平成27年度いじめの防止等に関する普及啓発協議会資料」(文部科学省)